

# poco a poco

パラグアイ便り 2024/06/01 Número16

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

## 【パラグアイで更新された温熱感覚】

耐え難い暑さを感じていた夏が終わり、季節は本格的に冬を向かえようとしています。30℃前後の過ごしやすい日と、10℃を下回る寒い日が混在する日々を過ごしています。いつの間にかパラグアイの気候に私の身体はすっかり適応しており、気温に対する感覚がパラグアイの人たちと似てきました。暑さに関しては、夏の厳しい暑さを経験していたために30℃くらいが快適だ、時に涼しいと感じるようになっています。また寒さに関しては、20℃を下回ると、ダウンジャケットを手放せなくなっています。パラグアイに到着して初めての冬を経験した時には“それほど寒くないのにモコモコのニット帽やダウンジャケットを着込んで、パラグアイ人はみんな寒がりだなあ”と思っていました。今ではパラグアイ人以上に暑がったり、寒がったりしている私に対し『日本は冬に雪が降るほど寒いんでしょう？ そんなに寒がって、花純はもうすっかりパラグアイ人らしくなったね。』と冗談を言われるほどになりました。

## 【マラソン大会に参加しました】

首都で行われたマラソン大会に挑戦しました。とても寒い朝早くに始まったマラソン大会でしたが、多くの参加者や応援にかけつけた人々に賑わっていました。走り抜くことができるか不安はありましたが、いざスタートを切ると「みんな頑張っている、私も頑張ろう。」と自然と力が湧きました。パラグアイ人だけでなく、私のような外国人も多く参加していましたが、スポーツを愛する心は共通しています。すれ違う参加者同士が「頑張るぞ!」と、掛け声を掛け合ったり、スタッフの方々に応援してもらったりすることを通して気合いが入りました。一番辛くなってきたタイミングでは、気が付けば自然と「頑張れ、頑張ろう。」と日本語で、自分自身に小さく呟いていました。言葉の力の偉大さや母国語に対する安心感を改めて実感しました。ゴールする頃には身体はすっかり温かくなっており、目標のタイムに間に合わせようとスピードを上げ、笑顔でゴールすることができました。

他にも積極的に様々なイベントに参加するようにしています。先月には、よその地域の祭りに参加する、教師の日や母の日を祝う食事会に参加する、DELE（スペイン語検定）を受験する、ソフトボール大会に出場する等しました。人脈の広がりや語学力の向上により掴める情報の量が増すと、味わえる楽しさや豊かさが増えることを実感しています。日本にも地域によって様々な違いがあるように、パラグアイ国内でも景色、物価、言語（公用語であるスペイン語とグアラニー語が話される割合）、習慣や文化、人々の雰囲気などに大きな差があります。自分が住んでいる地域と比べながら他の地域について観察すると、パラグアイについての新たな発見を楽しむことができます。



### 【ひとこと】

“ありのままの自分でいること、無理に好かれようとしなくていいことの大切さ”を、パラグアイでも感じています。元々マイペースで、我が道を通り進むタイプではありましたが、しかし誰かに嫌われることに全く抵抗が無いと言えばそうではなく、可能であるならば誰からも好かれていたいと思うこの感覚は、きっと共感していただける方も多いのではないかと思います。もちろん人によって違いはありますが個人的な見立てとしては、自分自身が人に嫌われること・相手に不快な思いをさせることにもものすごく抵抗を感じる“他人軸で捉えた自分”を大切に《日本人》と、相手はどう感じるかより自分の負の感情ほど外に出して自分の心の安定を図ろうとする“自分軸で捉えた自分”を大切に《パラグアイ人》とでは、大きな違いがあると感じています。どちらが良い悪いではなく、どちらも大切なことであると思います。ただ“無理をして好かれようとしなくていい方が、自分が好かれたい人に好かれやすい”と感じています。何をしてもしなくても誰かに嫌われてしまうこともあります。何もなくても好いてもらえることもあります。今後自分がどんな場所でどんな人と生活を共にするにしても、“いつだって必ずどこかに味方がいてくれる”と信じて、無理をしないありのままの自分、自分が好きな自由な自分でいようと思います。

### 【番外編】

今月参加した行事やイベントの様子を写真でお届けします。



一番の美女を決めるコンテスト。  
声援が大きいほど高得点ももらえるそうです。

“先生の日”を祝うパーティー。  
退職された先生方も含めて、食事やダンスを楽しみました。



母の日の食事会。



人気グループ“Tierra Adentro”の路上ライブ。